

当面の経済政策

田中 修

はじめに

7-9月期のGDP実質成長率等が明らかになったことを受け、温家宝総理は10月18日国務院常務会議を召集し、10-12月期の経済政策の方針を決定した。またこれに先立ち、温家宝総理は10月12、13、15日に経済情勢座談会を開催している。本稿では、この概要を紹介したい。

1. 国務院常務会議（10月18日）

概要は以下のとおりである（新華網北京電2012年10月18日）。なお、国家統計局が発表した9月の主要経済指標については、再掲を省略する。

1.1 経済の現状

マクロ経済の各種指標を組み合わせてみると、**現在、わが国経済の発展のファンダメンタルズは良好であり、経済成長は安定に向かい、かつ引き続き積極的な変化が出現している**¹。これは以下の点に現れている。

（1）経済成長が安定に向かい、9月の主要指標の伸びはある程度加速している。

1-9月期のGDP成長率7.7%は、年初確定した目標の範囲内である。貨物輸送量は前年同期比11.8%増加した。9月の輸出は7月・8月の伸びを大幅に上回り、単月の輸出規模では過去最高となった。製造業PMI指数は49.8%と4ヵ月ぶりに反転上昇を実現した。工業生産者購入価格の前月比は5月以降連続してマイナスになっている。消費者信頼指数は100.8に反転上昇した。

（2）経済発展方式の転換と経済構造調整は積極的な成果を得、内需とりわけ消費需要の経済成長に対する牽引作用が顕著に高まり、国際収支は均衡に向かっている。

食糧生産は、9年連続増加を実現した。産業構造のグレードアップは加速している。1-9月期のサービス業のウエイトは、前年同期より1.2ポイント高まった。ハイテク産業の発展はかなり速い。GDP単位当りエネルギー消費は3.4%下降したが、この下降幅は前年同期より大きい。中西部・東北地方の経済発展主要指標は、全国平均水準より好く、都市・農村、地域発展の協調性が更に強まった。

（3）雇用が安定し、個人所得が増加した。

1-9月期の都市新規就業増は1024万人であり、年間目標を超過した。都市住民1人当たり可処分所得と農民1人当たり現金収入の実質伸び率は、いずれも経済成長率を上回った。

¹ ゴチックは筆者。

(4) 物価・住宅価格は安定を維持している。

1.2 1-9月期の経済政策の回顧

経済運営において出現した新たな情況・新たな問題に対して、我々は安定成長を更に重要と位置づけ、マクロ・コントロールを強化・改善し、タイムリーに関連政策措置を打ち出した。これには、以下のものが含まれる。

(1) 財政支出の進度を加速した。

既定の予算の範囲内で、重点支出を保障し、民生に関わるインフラ建設を強化した。社会保障的性格をもつ安住プロジェクト・農村危険家屋の改造を早急に推進し、一部の都市の地下パイプ網の改造と上下水道プロジェクトを始動し、農地水利インフラ建設を強化した。

(2) 技術改造を支援した。

省エネ製品を国民に優遇するプロジェクトの実施範囲を拡大した。

(3) 構造的減税を強化した。

営業税を増値税に改めるテストを重点的に推進し、同時に一連の小型・零細企業の税負担を軽減する政策措置を実施した。

(4) 金融政策のアンチシクリカルな調節作用を発揮させた。

預金準備率と預金・貸出基準金利を2回引き下げ、金利とりわけ貸出金利の変動区間を拡大した。マネー・貸出の平穏で適度な伸びを維持した。

(5) 「新36条」の42の実施細則を打ち出し、民間投資を奨励した。

(6) 対外貿易の安定成長を促進する政策措置を打ち出した。

(7) 314項目の部門による行政許認可を取消し・調整した。

これらの措置は市場のコンフィデンスを強化し、経済成長の安定化を促進することに、重要な役割を果たした。各種政策が引き続き完全実施され、かつ役割が発揮されるに伴い、わが国経済は更に安定化するだろう。

1.3 10-12月期の経済政策の基本方針

現在、わが国の経済社会の発展が直面している内外環境は、依然として錯綜し複雑である。世界経済の回復の歩みは緩慢であり、貿易・投資の保護主義が台頭し、外需拡大は少なからぬ制約要因に直面している。内需が比較的速い成長を維持する難度は小さくなく、企業の収益は低下し、財政収入の伸びの鈍化は比較的顕著であり、**経済の安定化傾向の基礎は十分堅固ではない。**

我々は有利な条件・積極要因を見て取り、経済政策の自信・決意を固めるとともに、直面する困難・問題を十分推し量り、転ばぬ先の杖で沈着に対応し、経済政策の主動権をしっかりと把握しなければならない。

1.4 10-12月期の主要な経済政策

10-12月期の各政策は、今年の実現目標を全面的に達成させることにとって、重大な意義を有しており、しかも来年ないし更に長期にわたる発展にとっても極めて重要である。安定成長を更に重要と位置づけ、早急にしっかりと成果を出さなければならない。

(1) 積極的財政政策と穏健な金融政策の実施を堅持し、経済の平穩で比較的速い発展を促進しなければならない。

構造的減税政策をしっかりと実施し、営業税を増値税に改めるテストを着実に推進する。予算支出管理を強化し、年度末の突撃的予算消化を防止する。

社会資金調達規模を先を見越して調節し、市場流動性と新規貸出増加の合理的な規模を維持する。貸出構造を最適化し、債券発行の規模を拡大し、資本市場の安定した健全な発展を促進し、実体経済に対する金融サービスを改善する。

(2) 経済発展方式の転換を加速し、経済構造を調整しなければならない。

国務院「流通体制改革の深化と流通産業の発展加速に関する意見」を真剣に実施する。省エネ家電等の製品の消費を拡大する政策をしっかりと実施する。

建設中ないし建設続行を必要とする国家重点プロジェクトの建設を推進し、金融支援を増やし、プロジェクトの進捗を加速する。国家の産業政策に符合した業種・分野に民間資本が参入することを支援する。

企業の技術改造への投入を誘導する。エネルギー多消費・高汚染・生産能力過剰業種の拡張を引き続き厳格に抑制する。

(3) いささかも手を緩めることなく農業生産をしっかりと把握し、農業発展の良好な情勢を安定させなければならない。

中晩稲の最低購入価格及びトウモロコシ・大豆・綿花等の臨時購入備蓄政策をしっかりと実施する。豚等の農業・畜産・水産品生産の持続的で安定した健全な発展を促進する。農民が冬小麦・冬アブラ菜の作付面積を安定させるよう誘導する。化学肥料等の生産財の供給と価格の基本的安定を確保する。冬・春の農地水利建設を積極的に展開する。防災・減災政策を強化する。

(4) 改革の深化・開放の拡大に力を入れなければならない。

引き続き、財政・税制、投融資、電力価格、行政許認可等の分野の改革を深く推進する。所得分配制度改革の全体案²と農村集団土地収用条例を制定する。対外貿易の安定成長を促進する政策措置を真剣に実施する。

(5) 不動産市場のコントロールを断固としてしっかりと実施しなければならない。

差別化した住宅ローン・租税政策・住宅購入制限措置を厳格に実施する。わが国の国情に符合し、系統的に手配され、科学的に有効で、安定した予測可能な不動産市場のコントロール政策体系を早急に検討・制定する。

社会保障的性格をもつ安住プロジェクト建設を推進し、社会保障的性格をもつ住宅が低

² 報道ではこれが注目されている。

所得層の手中に公平に分配されることを確保する。一般分譲住宅用の土地供給を加速し、一般分譲住宅の供給を有効に増やす。

(6) 民生対策を高度に重視し、かつ適切にしっかり実施しなければならない。

就業対策を際立ててしっかり実施する。社会保障体系を健全化し、都市・農村住民の社会年金保険カバー率 100%政策を重点的にしっかり実施する。都市従業員・住民の基本医療保険制度を引き続き整備し、新型農村共同医療制度を強固に整備する。安全生産と食品・薬品の安全を、手を緩めずしっかり把握することを堅持する。

各地方・各部門は自信を確固とし、積極性・主動性・創造性を発揮し、政策をしっかりと実施し、政策完全実施と目に見える成果を確保し、今年の経済社会発展目標の全面的実現に努力しなければならない。

2. 経済情勢座談会

計 3 回開催された。その概要は以下のとおりである(新華網北京電 2012 年 10 月 17 日)。

2.1 参加者

(1) 政府側

温家宝総理、李克強副総理、回良玉副総理、王岐山副総理、馬凱国務委員兼国務院秘書長

(2) 業界責任者 (10 月 12 日)

物流・仕入、機械工業、電機輸出、紡績、鉄鋼、不動産、商業、非鉄金属等業界責任者

(3) 一部地方部門・企業責任者 (10 月 13 日)

江蘇・広東・遼寧・浙江の地方部門(発展改革委員会・経済貿易庁等)責任者、及び義烏小商品城・華為・上海大衆・中国遠洋・魏橋紡績等の企業責任者

(4) 専門学者 (10 月 15 日)

国務院発展研究センター余斌、パリバ銀行(中国)有限公司陳興動チーフエコノミスト、北京大学国家発展研究院林毅夫名誉院長等

2.2 温家宝総理の発言

(1) 7-9 月期の経済情勢

7-9 月期の経済情勢は、比較的良好であったと言ってよい。現在自信をもって言えるのは、中国の経済成長のファンダメンタルズは安定化傾向にあり、かつ積極的な変化が出現しているということである。各種政策措置が更に完全実施されれば、中国経済は更に安定化するだろう。

成長安定化のプロセスにおいて、第 1 次・第 2 次・第 3 次産業はいずれも調整を得た。中でも、消費の拡大が比較的顕著である。現在の状況からすれば、社会消費を引き続き安定的に拡大することは非常に重要である。

9月の輸出入は8月よりいいだろう。外部市場は我々が決定するものではない。当面最も重要なことは、対外貿易の安定成長を促進する政策措置を実施することである。

直面する困難はなお小さくないが、現在の経済発展の基本的趨勢は、経済成長・構造調整にしても、民生改善にしても、いずれも比較的良好な進展があり、さらには転機が現れていると見て取ることもできる。各業種・企業・地方部門などが関連方面で伝えてきた多くの情報からすると、現在経済に積極的変化が出現しており、経済成長は安定傾向にある。我々は努力を通じて、年間の経済社会発展目標を実現する自信がある。

(2) 鉄鋼業の問題

鉄鋼業の最も主要な問題は、生産能力過剰である。国際金融危機以降、この問題は一向に根本的な解決をみていない。重要なことは、決意をもって構造を調整し、合併再編を行い、過剰生産能力を淘汰することである。この道は早く歩みだし、早く主動的に行わなければならない。カギは実施にあるのだ。

(3) 経済調整の進展

我々は、今年は過大な刺激政策を採用していない。多くの企業は淘汰メカニズム下において、製品構造を含む自身の構造を調整・整備し、当面のリスクに対応している。

総じて見ると、在来産業は比較的困難であるが、ハイテク産業は比較的良好である。重化学工業は比較的困難であるが、電機・軽工業・紡績は相対的に良好である。工業は比較的困難であるが、農業・サービス業の情勢は比較的良好である。第1次・第2次・第3次産業の構造、及び内需と外需の構造は、いずれも良好な方面に転換している。

(4) これまでのマクロ経済政策

成長の安定に対する我々の態度は確固たるものであり、1日とてためらいはない。

①財政支出の進度を加速し、重点支出を保障し、構造的減税を強化した。

しかし、我々は予算を超えて経済を刺激する措置を採用してはいない。

②金融政策方面では、アンチシクリカルな調節作用を発揮し、預金準備率と預金・貸出基準金利を2回引き下げた。

我々の採用した措置は、改革と結びついている。例えば、営業税を増値税に改めるテスト範囲を拡大し、二重課税の減少に努めた。金利を調整すると同時に、金利の市場化を推進し、預金・貸出金利の変動区間を拡大した。このほか、新36条の42項目の実施細則を打ち出し、民間投資を奨励した。314項目の部門行政の許認可を取り消し調整した。これらの措置は、市場のコンフィデンスを増強し、経済の安定化に重要な役割を果たした。

(5) 不動産コントロール

不動産コントロールは初めて成果を見たが、依然として不安定であり、コントロール政策を動揺させないことを堅持しなければならない。不動産業の科学的計画、市場秩序の規範化、価格の合理的回帰といった今年のコントロールは、いずれも不動産業の長期にわたる安定と持続可能な発展を促進するためのものである。コントロール手段は、長期的にはなお段階的な整備が必要であり、市場と法制手段を更に重視する必要がある。

(6) 当面の経済政策

国際金融危機は 5 年目に入り、深層の影響が不断に顕在化している。我々の経済成長の外部環境は依然として十分峻厳であり、外需拡大の難度は大きく、外需の縮小を補う難度は小さくない。現在、企業収益の下降と財政収入の伸びの鈍化は比較的明白であり、**経済の安定化傾向の基礎はなお十分堅固ではない**。これに対し、我々はクリアな認識をもち、転ばぬ先の杖で、沈着に対応しなければならない。

今年はまだ 1 四半期残っており、直面する困難は小さくない。当面の経済政策をしっかりと行わなければならない。

① 自信を確固としなければならない。

我々は、努力を通じて年間の経済社会発展目標を実現する自信がある。

② それぞれの地方・部門・指導幹部・企業家は、いずれも積極性・能動性・創造性を発揮しなければならない。

③ しっかりと実施しなければならない。

今年打ち出した一連の成長安定化・構造調整・民生優遇の政策措置は、既に実施されたものもあるが、まだ実施されていないものもあり、実施が不十分なものもある。貫徹実施の状況を真剣に検査しなければならない。

④ 改革を推進しなければならない。

成長安定化の各種政策措置と改革を結びつけなければならない。

⑤ 民生改善の各種政策を重視しなければならない。

困難が大きいほど、チャンスも大きい。カギは、**変化に柔軟に対応することと構造調整を強化することにある**。国家の全体実力からしても、企業の発展状況からしても、我々には**現在のリスクに対応する能力がある**。中国は重要な戦略的発展のチャンスの時期にある。人口は多く、地域の発展はアンバランスであり、内需の潜在力は大きい。我々は**中国経済の未来に自信をもっている**。

(10月22日記)